

SS 研 教育・研究システム分科会 2026 年度会合

「AI for Everything」

— AI が拓く、知と研究の新たな可能性 —

～ SS 研会員限定 SS 研会員機関ご所属の方なら、どなたでもご参加いただけます ～

- 日時 : 2026 年 12 月 22 日(火) 13:30～17:00 (受付 11:50～) ※12:00～ ポスターセッション／展示
- 場所 : Fujitsu Uvance Kawasaki Tower (JR 川崎タワー) 20 階 大会議室 [神奈川県川崎市幸区大宮町 1-5] ハイブリッド開催 集合 + オンライン配信 (ZOOM)
- 開催趣旨

近年、生成 AI をはじめとする AI 技術の急速な進展により、AI は単なる研究支援ツールを超えて、新たな知識の発見や仮説生成、データ解析、シミュレーションなど、研究プロセスそのものを変え始めている。この潮流は、「AI for Science」として注目を集めているが、その応用は自然科学の領域に限らず、人文学や社会科学、さらにはロボティクスなど実世界を対象とする研究へも広がりつつある。こうした分野横断的な広がりは、AI の役割が、特定の研究分野を支援するものから、分野を越えて知の創造そのものに関わるものへと変化しつつあることを示しており、そこには、「AI for Everything」とも言うべき新たな可能性が見え始めている。

この変化は、研究者が「どのように問いを立て、知を生み出し、検証するのか」という研究の在り方そのものに、新たな可能性をもたらしている。同時に、それを支える AI 基盤やデータ基盤、計算環境など、大学・研究機関における研究支援の在り方についても、新たな検討が求められている。

こうした背景を踏まえ、本年度の教育・研究システム分科会 2026 年度会合(冬イベント)では「AI for Everything — AI が拓く、知と研究の新たな可能性 —」をテーマとし、AI が知の創造と研究の在り方をどのように変えていくのか、その広がりや今後の方向性を探る。AI を活用した創薬、人文学における知識分析、フィジカル AI・ロボティクス、そしてそれらを支える AI 基盤・研究支援などを取り上げ、分野を越えて広がる AI 活用の現在地を共有しながら、その先にある「AI for Everything」の可能性を見据え、これからの知と研究の在り方について議論を深めていきたい。

■ プログラム (予告なく変更する場合がございます。あらかじめご了承下さい。)

-敬称略-

11:50～	受付開始(現地) ※12:00～ ポスターセッション／展示
13:20～	ウェビナー接続開始
[司会] 永田 正樹 (静岡大学)	
13:30～13:35	開催趣旨説明 藤村 丞 (福岡大学)
13:35～14:20 講演 40 分 Q&A 5 分	講演 1 「AI とシミュレーションの融合が拓く次世代の医療・創薬 — 「富岳」での実践から富岳 NEXT 時代の研究基盤へ—」 荒木 望嗣 (京都大学) AI による予測・分子設計と、物理法則に基づく分子シミュレーションの融合は、創薬研究をどのように変えるのか。本講演では、タンパク質構造や薬剤結合の予測から、がんの病態・薬剤耐性の解析、医薬品候補の探索まで、具体的な研究事例を紹介する。さらに、スパコン「富岳」での実践を踏まえ、シミュレーションによる AI 学習データ生成や AI エージェントによる研究プロセスの自動化、富岳 NEXT を見据えた計算・データ基盤の展望を述べる。
14:20～15:05 講演 40 分 Q&A 5 分	講演 2 「RoboCup を起点とするスポーツ AI : 集団行動シミュレーションによるデータ生成とその応用」 秋山 英久 (長崎大学) 近年、スポーツにおけるデータ活用と AI 導入が急速に進んでいる。本講演では RoboCup サッカーシミュレーションを軸に、スポーツ分野への AI 応用について紹介する。マルチエージェントシミュレーションによるサッカー、行動・スペース価値モデルの発展、選手の軌道予測、さらには仮想的な結果を分析する反事実評価まで、次世代のスポーツデータ分析の可能性と展望について解説する。
15:05～15:25	休憩(20 分)

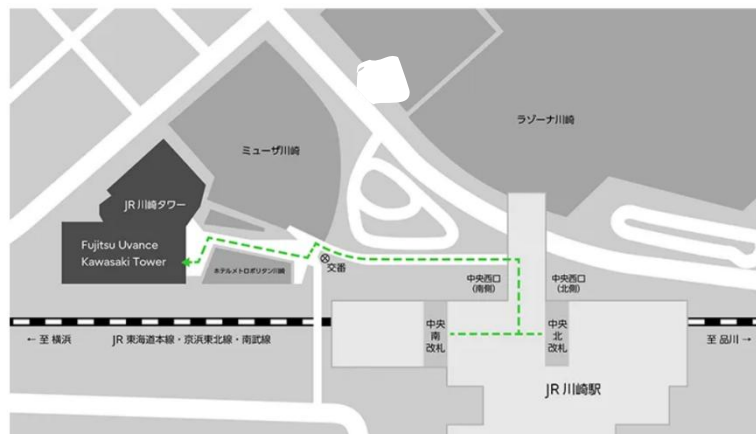
(裏面に続く)

15:25~16:10 講演 40 分 Q&A 5 分	講演 3 「Humanitext から考える、AI が論文を書ける時代の人文学」 田中 一孝（桜美林大学） 生成 AI は、人文学の文献探索や読解、論文執筆をどのように変えるのか。本講演では、西洋古典研究のための AI システム Humanitext の開発・運用をもとに、大規模言語モデルによる西洋哲学の文献分析を紹介する。原典と注釈を結びつける仕組みや意味検索の事例を通じて、解釈の根拠をたどり、生成結果を検証する方法を考える。さらに、AI が論文を書ける時代に研究者が担う問いの設定と評価、これらを支えるデータ基盤の課題を論じる。
16:10~16:55 講演 40 分 Q&A 5 分	講演 4 「最先端コンピューティング×AI がもたらす材料開発の革新」 溝渕 真名武（富士通株式会社） 最先端コンピューティングや来るべき AI の未来を見据え、材料開発領域に革新をもたらすとみられるマテリアルズ・インフォマティクスを取り組みや事例を計算科学や、データ & AI などの側面で例示し、素材業界における活用の可能性や持続的成長、目指すべき方向性について提言する。
16:55~15:00	閉会挨拶 村上 正行（大阪大学）

■ アクセス

＜＜電車でのアクセス＞＞

- ・ JR 川崎駅西口から徒歩 3 分
- ・ 京急川崎駅から徒歩 10 分



■ 参加方法

- 現地でご参加の方：名刺を 1 枚ご準備いただき受付にてご提示をお願いいたします。
- オンラインでご参加の方：ZOOM ウェビナーへの参加 URL は 2026 年 12 月 18~21 日にご連絡させていただきます。

■ ご参加について

- 参加対象：SS 研究会の各機関にご所属の方
- 参加費：無料。

■ 詳細・お申し込み

SS 研 Web サイトからお申し込み下さい。 <https://www-uf01.ufinity.jp/ssken/>

※教育・研究システム分科会 2026 年度会合は、SS 研冬イベントの一部です。

同日に開催する HPC 分科会 2026 年度会合やポスターセッション／展示、終了後には意見交換会の開催もありますので合わせて参加のご検討をお願いします。



【お問合せ先】サイエンティフィック・システム研究会(SS 研) 事務局
 〒212-0014 神奈川県川崎市幸区大宮町 1-5 JR 川崎タワー
 富士通株式会社 ミッションクリティカルシステム事業本部
 テクニカルコンピューティング事業部内
 Email:ssken-office@ml.css.fujitsu.com